

全国少年少女選抜レスリング選手権大会 万木蓮花さん見事優勝！



万木 蓮花さん（今津東小6年）が3月14日（土）、15日（日）に岐阜県で行われた第19回全国少年少女選抜レスリング選手権大会に出場し、見事優勝されました。
また4月4日（土）、5日（日）に舞鶴市で行われたジュニアクイーンズカップレスリング選手権大会にも出場され、準優勝に輝きました。（市民スポーツ課）

西日本銃剣道選手権大会 今津銃剣道スポ少、大活躍！

4月5日（日）、大阪府で第59回西日本銃剣道選手権大会が行われ、今津銃剣道スポーツ少年団の団員が次のとおり優秀な成績を収められました。（市民スポーツ課）

- 【団体戦】
中学生の部 優勝 今津銃剣道スポーツ少年団
- 【個人戦】
小学1・2年生の部
優勝 中山 結愛（今津東小2年）
小学3・4年生の部
優勝 坂井 夢空（今津北小4年）
準優勝 井上 大志（今津北小4年）
第3位 光田 耕太郎（今津北小4年）
小学5・6年生の部
優勝 中山 鈴嵐（今津東小6年）
中学生の部
準優勝 北出 滉弥（今津中1年）
第3位 松本 亜衣奈（今津中1年）
高校生の部
優勝 平田 秀幸（尽誠学園高2年（今津中出身））



1「あど川ふじ太鼓」の力強い演奏が来場者を魅了。2オープニングイベントを楽しむ来場者。3BMXフラットランド 内野 洋平選手や、4フリースタイルフットボール 徳田 耕太郎選手のパフォーマンスに会場の熱気は最高潮に。5ボランティアスタッフの皆さん。たくさんの方のご協力でイベントが運営されました。6福井市長もマラソンに参加、記録は8.53kmでした。7午後8時1,983人の参加者が歓声をあげ一斉にスタート。

1,983人が力走！

松ノ木内湖周辺で約100匹のこいのぼり 園児の夢乗せ、風船ふわり

5月3日（日）、安曇川町の松の木内湖周辺で、第4回鯉のぼり吹き流し・夢ふうせん飛ばし大会が行われました。
松の木内湖再生利用推進協議会が子どもたちの健やかな成長と松の木内湖の再生を願い、平成24年から実施されています。4年目となる今回は、地域住民が持ちよったこいのぼりに加え、はこぶね保育園の園児たちの手作りのこいのぼりが元気に泳ぎました。園児や地元小学生による夢ふうせん飛ばしのイベントでは、放たれた夢風船が、一斉に大空へと昇って行きました。（秘書広報課）



浅見綱齋先生例祭 浅見綱齋の功績を偲ぶ

4月13日（月）、新旭町太田の綱齋書院で綱齋書院保存会主催の浅見綱齋先生例祭が行われました。

この例祭は、綱齋の功績を偲び、正徳元年（1711年）の没後から続けられ、大正13年に書院が新築されてからはこの時期に行われています。当日は、新旭町の各自治会長など約30人が参加され、厳かな雰囲気の中、祭を進行されました。
浅見綱齋は、1652年に新旭町太田で生まれた儒学者で、著書『靖献遺言』八巻（36歳のころ出版）は、幕末に大ベストセラーとなり、勤王の志士の必読書と呼ばれ、明治維新に大きな影響を与えました。



例祭後に行われた総会では、偉大な綱齋の教えを地域に広めるため、意見交換が行われ、靖献遺言の解説などさまざまな取り組みが行われることが決まりました。（秘書広報課）

世界6大陸33か国35か所の会場
で73,360人が同時にスタート！
日本会場では1,983名の方が、夜8時に満面の笑みで今津総合運動公園をスタートしました。
ランナーは、延々と続く幻想的な光の帯を織りなしながら、迫りくるゴール（キャッチャーカー）との競争を繰り広げました。
日本会場の優勝者は、男性部門では沖和彦さん（滋賀県出身）が67・68kmを走り日本チャンピオンとなりました。女性部門では渡邊裕子さんが56・33kmを走り日本人初となる世界チャンピオンに輝きました。

このイベントの参加料は全体で約420万ユーロ（約5億6千5百万円）となり、その全額と同額が、脊髄損傷の治療研究に資金助成を行う非営利団体の財団「Wings for Life」の支援に使われます。

市民の皆さんには夜中のイベントにも関わらず、格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

閩 観光振興課
☎(25) 8040

Congratulation!
女性の部
世界チャンピオン誕生！
渡邊 裕子さん
【記録】56.33km

「まだあまり実感が湧かなくて、夢のようです。後ろからゴールが追いかけてくるのは初めて。自分の限界がゴールということで、初めての感覚のレースだったのですが、とても楽しく走れました。」

迫るゴールから逃げ切れ

日本初の世界同時マラソンが高島で開催
● Wings For Life World Run

走れない人のために走ろう！をスローガンに世界規模のランニングイベントWings for Life World Run（ウィングス フォー ライフ ワールド ラン）が、5月3日（日）に日本で初めて高島市で開催されました。

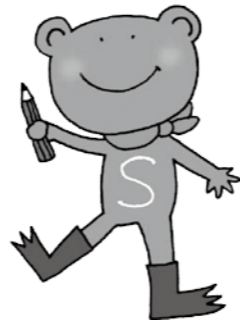
キャッチャーカー

女性の働きやすい職場環境づくりのために

女性の働きやすい職場環境づくりを推進するため、市と高島市男女共同参画推進協議会で、市内の企業にアンケート調査と聞き取り調査を行い、「女性の働きやすさの指標」を作成しました。

皆さんが働いている会社の「女性の働きやすさ」はどうですか？

女性の働きやすい職場環境は、男性にとっても働きやすい職場環境となるはずで、誰もが働きやすい職場環境づくりのために、できることから取り組みましょう。



※評価の数字が大きいほど、女性が働きやすい環境が整っているといえます。

項目/評価	1	2	3
①制度	仕事の悩みを相談できる窓口がない	仕事の悩みを相談できる窓口はあるが、相談しにくい	仕事の悩みを相談できる窓口があって、相談しやすい
②雇用・人事	女性は管理職になれない	女性は管理職になれるが、女性を管理職にするためのサポート体制がない	女性の管理職がいて、女性を管理職にするサポート体制もある
③従業員の勤務	個々人の適切な仕事量がはっきりしていない	個々人の適切な仕事量がはっきりしている	個々人の適切な仕事量がはっきりしていて、コントロールもできる
④女性従業員への配慮	女性専用休憩室がなく、トイレも女性用・男性用に分かれていない	女性専用休憩室はないが、トイレは女性用・男性用に分かれている	女性専用休憩室があり、トイレも女性用・男性用に分かれている
⑤介護	介護休暇制度が取得できない	介護休暇制度が取得できるが、利用しにくい	介護休暇制度が取得でき、利用しやすい
⑥子育て	子どもができたら、仕事を辞めてしまう	子どもができたら、仕事を辞めてしまうが、再雇用はある	子どもができて、仕事を続けることができる
⑦職場の人間関係	セクハラ、パワハラ相談窓口がない	セクハラ、パワハラ相談窓口はあるが、相談しにくい	セクハラ、パワハラ相談窓口があって、相談しやすい
⑧意見を取り入れる仕組み	仕事の方針を決める時に、従業員の意見を聞いてくれない	従業員の意見を聞いてくれるが、仕事の方針を決める時に女性が入っていない	従業員の意見を聞いてくれて、仕事の方針を決める時に女性が入っている
⑨高島の地域特性として	高島市内で働き続けることができない	高島市内でパートとして働き続けることができる	高島市内で正社員として働き続けることができる

市内企業へのアンケートでは、相談窓口はあるけど、利用者が少ないという結果だったよ。

介護や子育てをしながら働ける環境が大切だね。

市内で継続した雇用があって、働き方の選択肢が増えることが重要だね。

6月23日から29日は男女共同参画週間です

平成27年度男女共同参画週間キャッチフレーズ

地域力 × 女性力 = 無限大の未来

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには皆さん一人ひとりの取り組みが必要です。私たちを取り巻く男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

イラスト：タカノキョウコ

ヴォーリス建築の旧今津郵便局が国の登録有形文化財に 市協働提案事業でJAZZコンサート

旧今津郵便局は、3月26日(木)に国の文化財登録原簿に登録され、正式に市内11件目の登録有形文化財となりました。

4月26日(日)には、このことを示す文部科学大臣名の登録証とプレートが、市教育委員会から建物の所有者と、旧今津郵便局の保存・活用活動に取り組むヴォーリス今津郵便局の会会長に手渡されました。

また、この日の午後は、本年度、ヴォーリス今津郵便局の会と市が協働で取り組む「ヴォーリス通りにぎわい再生事業」第一弾のイベントとして、「ヴォーリス・スプリング・JAZZコンサート」が開催されました。文化財建造物の中で楽しむ市民バンド・K-Bandの演奏に、満員の客席から大きな拍手が送られていました。(文化財課)



登録証がヴォーリス今津郵便局の会会長に手渡されました

旧今津郵便局でジャズコンサート

高島ブランドの発信

歴史的な価値や意義を伝えるストーリー性があり、その魅力を海外にも発信できる「日本遺産」として、先ごろ滋賀県の「琵琶湖とその水辺景観」が選定されました。

市からはその構成要素として、針江の川端に代表される、水と人の営みが調和した文化的景観等があげられています。

高島のこうした地域資源が見直されたり、関西圏の都市部から多くの方が高島に移住される背景には、人々が、経済的に豊かに暮らし多くを消費することから、家族や友人と過ごす日常を大切にしたり、豊かな自然の恵みと調和することに、新しい価値を見出している変化を感じます。

市では、深刻な人口減少や少子高齢化、厳しい財政状況の中にあっても、こうした人々の価値観の変化を追い風と受け止め、地方創生の取り組み等を通

じて、高島に既にあるものの中から、高島らしい豊かさを開拓し、発信する事業に取り組んでまいります。

例えば、国内シェア9割の生産を誇る高島ちぢみについて、海外にも新しいニーズが開拓できるのではないかと

高島の豊かな自然と水から生まれた野菜や果物などに、高島の暮らしや作り手のストーリー力を向上できないかと

ふるさと納税なども活用しながら、高島産品のPRを通じ、こうした産品を育む高島の地そのものやそこに関わる人、ひいては高島の暮らしへの関心を呼び起こし、高島に人の流れを起こせないかと

高島のブランド発信は、人の動きを変える将来への投資です。今年度、本格的に取り組んでまいります。

福井 正明



市長雑記